

教区だより

2021
10月

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌 第**379**号

新型コロナウイルスの猛威が世界中を不安に陥れ、私たちの日本社会も計り知れない不安の只中にあります。これまで「当たり前」にしていたことが当たり前ではなくなつた現実に直面し、あらためて考えさせられること、気づかされることも多々あるのではないかと思います。私たちが当たり前にしてきた「日常」とは、実はどこにも約束されていない奇跡の連続であり、また人間の自我分別が思い描く理想は、常に事実の前に屈服せざるを得ないという道理も教えられます。いま、私たちは早期の事態終息を深く願ひながらも、このよくな時だからこそ、浄土真実を宗とする宗祖親鸞聖人の教えに身をさらし、聖人の教えに出会い直していくことが大切ではないかと思ひます。



人間の価値観への埋没は 非人間化への道

※毎月掲載しております「ことば」は、教区駐在教導が担当しています。

目次

1 頁 「ことば」

2 頁 **連載** 悲しみが通じあう時 ―愚禿悲歎述懐を通して―

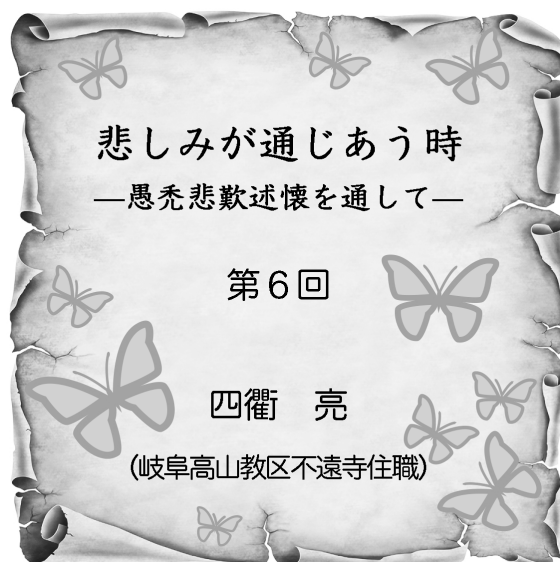
《第6回》 よつつじ 四衢 あきら 亮 氏

3 頁 「今、この時に、親鸞聖人に会う」 ながとみ 永寶 はるか 晴香氏

4 頁 教務所からのお知らせ

イマダカラ^o

(前京都教区駐在教導) 谷本 おさむ 修 氏



小慈小悲もなき身にて

有情利益はおもうまじ

如来の願船いままさずは

苦海をいかでかわたるべき(聖典五〇九頁)

「そのひとびとにともないて念仏もうさるる老若、そのかずをしらずおわしますなかに、上人のおおせにあらざる異義どもを、近來はおおくおおせられおうてそうろうよし」と『歎異抄』第十章に、かつて親鸞聖人のもとで一緒に教えを確かめた人々に随って教えを聞いていらつしやる多くの方の中に、聖人がおっしゃったことは異なることを言い出される人々が多くあると出てきます。

また後序では、「たがいに問答し、ひとにもいいきかするとき、ひとのくちをふさぎ、相論をたたかいたんがために、まったくおおせにてなきことをも、おおせとのみもうすこと、あさましく、なげき存じそうろうなり」と、信心の在り方について問答する時に、相手を言い伏せるために聖人がおっしゃっていないことを言い出すことがおこっていると言われます。

『歎異抄』において異なると歎かれる存在は、外から邪な存在としてやってくるのではなく、教えと一緒に聞く仲間の中からおおるとされていきます。そしてその姿は、「いいおどろかす」と表現されます。

「なんじは誓願不思議を信じて念仏もうすか、また名号不思議を信ずるか、いいおどろかして」と第十一章にありますし、第十八章では、「すべて仏法にことをよせて、世間の欲心もあるゆえに、同朋をいいおどさるるにや」と表されます。懸命に信心を確かめようと、尋ね聞き、ともに語り合う、そのことは「信心沙汰」として蓮如上人も勧められる大切なことです。しかし、その中から異義が生まれてくる。そしてその異義は、ともに学び語る仲間を「いいおどろかす」ことになると思われるのです。

「そんな信心は間違っている」「こんなことは

つきりしていないのは信心がないからだ」と相手を責め、他人の信心を評価します。そして自分の主張の正しさを根拠づけるために、親鸞聖人の言葉を持ち出します。だんだんそうした言い合いが重なって、おっしゃってもないことをさも語られたように言いつのが起こってしまうのです。

教えを聞くということは、教えから限りなく自身問われることなのでしょう。そして語り合うのは、問われたことを確かめ合い、自分が気づかなかったことをさらに学び合うためです。

しかしいつの間にか、教えを信ずることにおいて、私を問う教えの側に自分が立ってしまいがちです。そして他者を問い裁くものになってしまうのです。その裁く自分を正当化するために教えの言葉も私化します。その人を自分の考える正しさに導こうとその言葉を駆使するのです。

そんなふうには、あらゆる人を救う大悲の言葉を無残にしてしまうことさえする私の罪業深重の身が、決して見捨てられることなく、さらに教えによつて「小慈小悲もなき身」と知らされたのです。

こうした教えとの出会いへの深い謝念が、この教えがあればこそ、「如来の願船いままさずは、苦海をいかでかわたるべき」とうたわれています。

「今、この時に、親鸞聖人に遇う」



「生活の中にあつて埋没せず」

三条教区第10組 浄敬寺 永寶 晴香

二〇二二年四月から三条教区の女性の方々と、『女聲のための声明学習会』という儀式・声明に関する定例学習会を始めました。三条教区では、報恩講の音楽法要において女声だけで助音勤めをする一座を設けていただいています。約十年を経て、「通年でお稽古したい」という声が上がったため、有志の方々と共に立ち上げたのがこの学習会です。

それぞれのお寺や家庭内で、坊守・母・祖母等々の役割を何重にもこなす女性が参加しやすい時間帯に設定し、女声の発声しやすい音域で、今後の

研鑽の第一歩となることを願って始めたところ、思った以上の賑わいに驚いています。

この会の立ち上げメンバーは、私よりも少々年上の方が多くおられます。今まで学ぶ場所がなかったのでしょうか。そんなことはないはずですが、お寺を留守にできなかったり、家事や育児や介護の時間と重なってしまったり、初めの一步を踏み出すには少々敷居が高かったり…というのが現実でしょう。何より、因習の見直しや制度の改正が間に合わず、今になりやっと自分が学びたいことを正直に口に出し、行動に表せるようになった方々も多いのではないかと感じています。

本来ならば、一年半前にスタートの予定で準備していたこの学習会。突然の新型コロナウイルス感染症の流行に、対策が明確でなかった二〇二〇年度は一年先送りとし、同じ年の音楽法要も密を回避できないとのことで中止となりました。しかしその後、臨機応変に対応し、再企画・告知して、一年遅れで始めることができました。

自分達の手でできる限りの感染防止策を施し、会の持ち方を工夫し、決して歩みを止めませんでしたが。そして、ここからまた新たな繋がりも出来て行き、学びの場はとても明るい雰囲気です。感染症の流行を機に、むしろやるべきことや学ぶべきことがはつきりしたのかもしれないと、感じさ

せられているところです。

私が、「親鸞聖人に遇いたい」とその教えやお姿を憶うとき、忘れられない存在がお連れ合いの恵信尼様です。新潟は親鸞聖人と恵信尼様がともに生きられた土地。親鸞聖人の歩みを記された『恵信尼消息』の力強いお言葉からは、生活の中にあるながら、それだけに埋没することなく、ご自身も念仏申して生きていかれたであろう念仏者・恵信尼様のお姿が読み取れます。

私は、そんな恵信尼様の越後での生活の様子を、学習会仲間の皆さんと重ねて想い描き、親鸞聖人に最も大きな影響を与えた師が法然上人ならば、最も影響力のあった朋は恵信尼様かもしれない…と想像しています。

生活・家族を抱え、お寺の伝統を大事に守りながらも、新たな歩みを進められている学習会仲間の皆さんからは、毎回刺激をいただくばかりです。恵信尼様の面影すら感じさせる私の越後の御同行・御同朋は、私を酔わせることも眠らせることもしない、師であり朋です。

教務所からのお知らせ

《得度》

二〇二二年八月七日付

山城第一組	圓覺寺	篠原 鷹男
山城第二組	常願寺	朽木 史香
山城第三組	常願寺	朽木 響
山城第四組	常願寺	朽木 香音
山城第五組	教榮寺	山香 宏美
近江第三組	長久寺	武村 隼人
近江第四組	悲願寺	武村 琢磨
近江第五組	善徳寺	出水 律
近江第六組	最勝寺	舍夷 泰良
近江第七組	最勝寺	山田 直美
近江第八組	最勝寺	山田 直美
丹波第一組	教泉寺	吉田 惺大

〔敬称略〕

《住職任命》

二〇二二年八月二十八日付

山城第三組	願船寺	柿木 逸明
近江第四組	善慶寺	浅野 真哉
近江第五組	圓照寺	高橋 厳雅

〔敬称略〕

《敬弔》

ご生前のご功勞を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

近江第四組 善立寺前住職 川那辺 恵
二〇二二年八月五日 八十六歳

〔敬称略〕

《常磐会館報因講について》

本年も新型コロナウイルス感染症の感染防止対応のため、会場である大講堂の座席数が限られることから、常磐会館報因役員・総代を中心とした内勤めとします。ご了承ください。

なお、後日、講師 墨林 浩氏（大阪教区光昭寺）の法話動画を京都教区ホームページにて配信する予定です。



昨年の講師、藤元雅文氏の法話動画も京都教区HPにて配信中！

イマダカラ

9月30日をもって退職いたしました。これまで宗務役員として、本山同朋会館の補導、高山教区・北海道教区・京都教区の駐在教導という大切なお役をいただきましたが、その責を十分に果たせたかと自問すると、はなはだ心もとないものを感じています。でも、自分勝手ではありますが、家庭やお寺、組や教区という現場で、悩みながら仏法に生きることにあがき続けている多くの方にお会いさせていただいたことは、私にとって宝であります。

岡崎教区の敬信寺（静岡県島田市）に家族で入寺しました。もともと入寺したいと思ってはいましたが、いざ決まるとなると、自分でも不思議なくらい喜びを感じています。お寺を聞法の道場として開き続けることに力を尽くして還浄された先達や、今も踏ん張り続けている方の存在が、自分にそう在りたいと思わせている、と強く感じています。

「お寺は寺族の生活のためにあるのではない」「私たちは「教化」ということに生涯を尽くすことをもって、許されて寺に身を置く存在なのです」「君住職一代の間に一人念仏者が生まれるかどうかや。そのためには、君が念仏者にならねばならぬ（藤井慈等先生が安田理深先生に言われた言葉）」「自分自身が如来に教化されるということがそこにあるならば、何をしてもいいのでしょう。しかし、自分自身が如来に教化されるということがそこにあるならば、何をしてもダメです」……。今まで出あったこれらの言葉を我が身に刻み込みたいと思います。

これまで本当にありがとうございました。教区からお寺に自分の現場をシフトし、ご門徒や地域の方と生涯のお付き合いをさせていただきながら、念仏の声を聞き、念仏申してまいります。（前京都教区駐在教導 谷本 修）

編集後記 the editor's note

9月30日をもって谷本修駐在教導が退職されました。前任地の北海道教区から京都教区に赴任されてはや5年。谷本駐在とは短いようで、いろいろあった密度の濃い時間でした。思えば、いろんなことを語り合ったよき先輩であり、朋でありました。「編集後記」の場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。静岡の地に活躍の場を移されますが、これからも御同朋というともに歩む仲間であってくださることを切に願います。この一年あまりは新型コロナウイルス感染症という大きな壁に直面した我々ですが、京都教区の教化委員会改革にご一緒できたことは大きな経験とさせてもらえました。これから始まる新教化体制での糧になりたいと思います。改めて、谷本さん、ありがとうございました。そして、お元気で！

さて、先ほど述べましたように、新体制のもと新生出版部会として『教区だより』の編集が10月以降始まっています（残念ながら新体制での出版はもう少しお待ちください）。ですが、いまだ先は見通せない状況が続くと思われます。一刻も早く終息することを願わずにはおれません。（出版部会 蒲池 義圭）

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

『教区だより』 第379号

発行人 日野 隆文（真宗大谷派京都教務所長）

発行所 真宗大谷派京都教務所

〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入

Tel : 075 (351) 5260 Fax : 075 (351) 5256

発行日 2021 (令和3) 年 10 月 1 日

メールアドレス : kyoto@higashihonganji.or.jp

真宗大谷派京都教区ホームページ

京都教務所

検索

